令和３年度　第４回　北海道総合開発委員会計画部会　議事録

日時：令和３年９月１日（水）13:00～13:45
場所：Ｗｅｂ会議（事務局：道庁本庁舎 ３階 テレビ会議室）

出席者
委　員　山本部会長、髙橋副部会長、小林委員、森崎委員　　４名出席

北海道　上田計画局長、川村計画推進課長、金子計画推進課主幹　ほか

（川村計画推進課長）
ただ今より、令和３年度第４回北海道総合開発委員会計画部会を開会いたします。
本日の進行を務めさせていただきます、計画推進課長の川村です。よろしくお願いいたします。それでは、開会に当たり、総合政策部計画局長の上田よりご挨拶申し上げます。

（上田計画局長）
総合政策部計画局の上田でございます。皆様には大変お忙しい中、第４回目の計画部会にご出席いただき、厚く御礼申し上げます。
２月の総合開発委員会からの諮問を受けまして、５月から計画部会で見直しの内容について、様々な視点からご議論をいただきました。これまで経験したことがないような、この難局の中で新しい働き方や暮らし方、そういったものが広がって、人々の価値観も変容しつつある状況の中で、変化に的確に対応した未来の北海道の政策展開の方向性について、ご議論をいただいたことを重ねて御礼を申し上げます。
道といたしましては、本日の計画部会や、この後に開催の総合開発委員会でのご意見も踏まえて、速やかに総合計画を見直しまして、感染症の収束を見据えつつ、コロナ禍の逆境を乗り越える取組を推進する必要があると考えておりますので、委員の皆様には、引き続きお力添えを賜るようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

（川村計画推進課長）
本日の会議の出席状況についてですが、過半数を超える４名が参加されておりますので、北海道総合開発委員会条例施行規則第４条第１項及び第５条第６項の規定により、部会が成立していることをご報告申し上げます。
本日の会議は、報道関係者を含め、公開での開催とさせていただいております。また、議事録につきましては、後日、道のホームページで発言者のお名前入りで公開させていただきます。本日の会議資料につきましては、あらかじめ電子メールでお送りさせていただいておりますので、適宜ご参照くださいますよう、お願いいたします。
なお、途中で音声が聞こえなくなった等、通信環境にトラブルが生じた場合には、挙手してご発言いただくなどして、その旨お知らせいただくようお願いいたします。また、トラブルの状況によっては、事務局の判断により、一時会議の進行を中断させていただく場合がありますので、ご了承願います。
それでは、ここからの進行は、山本部会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

（１）北海道総合計画【2021 改訂版・案】について

（山本部会長）
それでは、議事を進めてまいります。はじめに、今日の部会の所要時間については１時間程度、14:00 を目途に進めていきたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

本日の審議事項は、次第にありますように、議題（１）「北海道総合計画【2021 改訂版・案】について」の１点です。最初に事務局から説明をお願いします。

（金子計画推進課主幹）

それではご説明申し上げます。はじめに資料１をご覧ください。

「９月」の欄にございますとおり、本日、「第４回計画部会」を開催させていただいております。この後には、引き続き「総合開発委員会」を開催させていただくこととしており、計画部会、そして委員会のご了承をいただきましたら、知事への答申を経て、１０月には「見直しの後の総合計画」として決定してまいりたいと考えております。

資料２は、第３回計画部会でのご意見の概要をまとめたものでございます。

資料３は、総合計画の改訂案となります。８月にお示ししたものから修正したところを確認させていただきますので、よろしくお願いいたします。

４ページをご覧ください。一番下に、「ＳＤＧｓの達成に向けて取組を推進している自治体の割合」の指標を追加したところですが、８月時点では、目標値を５０％としておりました。しかしながら、国の「第２期　まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、この指標の目標を、令和６年度までに６０％と設定していることがわかりましたことから、道では、その翌年度、すなわち、計画期間の最終年度である令和７年度までに６０％以上、をめざすことを掲げました。

続きまして、２０ページをお開きください。新幹線の絵の右側に「多様性に富む地域」というところがございます。その二つ目の●でございますが、「テレワークなどＩｏＴを活用し、広域分散型の地域構造や首都圏からの距離の遠さという、これまでのハンディを克服した、・・・」というところがございます。

この「首都圏からの距離の遠さ」の部分は、前回お示しした案では、「疎（過疎の疎）」となっておりましたが、「疎」という漢字一文字による表現が、必ずしも馴染みあるものではなく、「広域分散型の地域構造」と意味合いも似通っているといったご指摘もございましたことから、表現を修正させていただいております。

３４ページ、「北海道の真価を発揮」の２行目、「首都圏からの距離の遠さ」も、同様の考えで修正したものでございます。

続きまして、６０ページ、上段の■「新エネルギーの開発・活用促進や環境・エネルギー産業の創造」でございますが、その３つめの○、「『エネルギー基地北海道』の確立に向け」に続けて、「送電網等の電力基盤の増強を国に働きかけ事業環境の整備を図る」との文言を追加しております。

８０ページをご覧ください。一番下の○でございますが、「交通インフラ整備と自動運転やＭａａＳ等との連動」に加え、「交通事業者をはじめとする幅広い関係者が相互に連携・協力できる環境を整えながら「運輸連合」に向けた検討を進めるなど、利便性が高くストレスのない公共交通の実現に向けて取り組む」旨を追記いたしました。「運輸連合」につきましては、巻末の用語解説にも掲載しております。その他、最新の統計数値の公表などを受けて、グラフや図表の更新を行っております。

資料４は、前回の計画部会でご提案いただきました「メッセージ」でございます。あわせてご審議のほど、お願いいたします。説明は以上です。

（山本部会長）

ただ今、事務局から、「北海道総合計画【2021 改訂版・案】」が示されました。この改訂案については、この後引き続き開催される総合開発委員会において、計画部会としての審議経過を報告することになります。内容につきましては、前回までの部会で、委員の皆様から出された貴重なご意見が可能な範囲で反映されているものと思っております。改めて、この案に対してご意見やご感想がありましたら伺ってまいりたいと思います。

その前に、前回の部会では、総合計画に込めた思いを伝える試みとして、メッセージ案についてもご議論いただき、若干の修正を施しております。メッセージ案につきましては、本日、この

後に開かれる総合開発委員会で、寳金委員長から知事に渡していただくよう、私から提言したいと考えておりますので、こちらにつきましても、ご意見やご感想があれば、伺ってまいりたいと思います。

また、この計画を実際に推進するに当たって、特に留意すべきとお考えになることなどがございましたら、あわせてご意見を伺いたいと思います。皆様から、順番にご意見等を頂戴していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。最初に小林委員からお願いします。

（小林委員）

各委員の皆様と、いろいろと議論させていただきました。部会長、副部会長はじめ各委員の皆様に敬意を表しますとともに、膨大な作業を担っていただいた事務局と関係部署の皆様に改めて感謝申し上げます。特に山本部会長には、素晴らしいメッセージを作っていただき、重ねて感謝申し上げます。

２点ほど気になっているのですが、先ほど事務局のご説明の中で、北海道の「疎」の表現を距離感ということで整理されているとのことなのですが、「疎」の意味合いというのは、距離感もありますが、おそらく北海道の中で人口が集中していないということであり、距離ではないという気がしております。

もう一点は、カーボンニュートラルの社会実現のところです。各委員ご承知のとおり、菅首相の温室効果ガス排出量の２０５０年までの実質ゼロですとか、鈴木知事の温室効果ガス対策ですとか、今年の７月には閣議決定された北海道のゼロカーボン北海道、これに取り組むということは明記されていますし、このことに伴って、中央省庁にタスクフォースが設立し、あるいは支分部局ベースでの組織体、道庁においてもゼロカーボン北海道推進協議会ですとか、環境生活部の中に推進局あるいは推進監の新設、こういった体制強化が図られています。カーボンニュートラルに向けた動きが急加速しているということかと思います。

この点につきましては、改定案の４５ページから事務局の方で記載していただいておりますが、非常に大きな問題であり、かつ国内では、北海道がその対応の先鞭となる位置付けですので、もう少し議論を深めた方がよかったのかなと感じておりました。ただ、政府による骨太方針や、北海道の先鞭という位置づけが、今年の７月でしたので、タイミング的には致し方なかったのかなとも思います。

この改訂案がこの後の総合開発委員会で承認されると思いますが、今後はこの計画を確実に実践して推進していくことによって、コロナ禍を乗り越えて、さらに北海道の稼ぐ力をより一層高め、全国よりも１０年早く進展している人口減少、少子高齢化に伴う、労働力不足の一層の深刻化、それによる経済の大幅な縮小、こういった課題を克服して、北海道の持続的発展につなげていくことが肝要かと思います。

いずれにしましても、この計画の達成によりまして、北海道の未来、社会が明るく輝き続けることを切に願っているところでございます。以上でございます。

（山本部会長）

ありがとうございます。続きまして髙橋委員お願いします。

（髙橋委員）

髙橋でございます。

私も小林委員と同じく、最初に、この会議に参加した方に御礼を申し上げたいと思います。見直しという形で、いろいろな観点を議論することができて、私も大変勉強になりました。特に、メッセージについては、どうしても総合計画は、細部にわたってなかなか詳細に見ていただく機会が少ないことがあるのですけれども、全体を通して、今、何を伝えたいのかということが、こういう形で一つのものになったということは、大変うれしく思っておりますし、山本部会長をはじめ、事務局の皆様に御礼を申し上げます。

特にメッセージに関しましては、人口減少、少子高齢化をしっかり書いていただきたいという

話ですとか、この計画は行政のみならず企業・団体、さらには道民みんなで、次世代の子どもたちにつなげていくのだ、という時間的な流れも書いていただきましたし、輝きに磨きをかける、ということも書いていただきました。大変よろしいのではないかと思います。こうした新たな取組が、今回の見直しの一つの成果だと思います。

もう一度この計画のタイトルを見ますと、２０１６年度から２０２５年度ということで、残り４年余りしかない。その中でどうやってこれを実現していくのかということは、時間が長いようで短いという感じを受けております。ですから、よりメリハリをつけた形で実施していく必要があると思っています。

今回、副部会長として微力ながらお手伝いさせていただいたのですけれども、私の中では大きな軸が二つあって、一つは、変えなければならないものと、なかなか変わらないものもある。そういう対立軸と、より早く進めていかなければならないものと、じっくり進めていく必要があるもの、という軸があると思いました。

特に、すぐ変えなければならないものとしては、この３本柱ではないですけれども、「危機に対する強靭な社会の構築」は今すぐにでも取り組んでいかなければならないものですし、北海道の魅力自体は食も観光も含めて変わらないものですから、変わらないのであればより磨きをかけることを考えるという形だと思います。

一方で、より早く、というもの、例えばＤＸみたいなものは、今すぐにでもやらなければならないということでしょうし、人材育成は、急に成果が出てくるものではないので、じっくり取り組んでいかなければならない。こういう軸で、もう一度この総合計画を見ていくと、あと４年、というのは長いようで短いですから、しっかりと取り組んでいく必要があると思います。

どちらにしても、この４年間にどういうリスクが発生してくるか、わかりません。人口減少もそうですし、グローバル化についても、観光客のグローバル化ということでずっと進んでいたところにこれがなくなったということは、やはりリスクという捉え方をしなければなりませんし、自然災害、インフラの老朽化もそうだと思います。

感染症対策も、今までのような一辺倒の感染症対策では難しいと思いますので、リスクの認識、捉え方をしながら、残りの４年間、計画を実行していくということかと思います。

どちらにしても、このメッセージがそれを包括したものとして、道民の皆様にしっかりと伝えることができれば、今回の見直しは成功だと思いますので、これからも頑張っていただきたいというのが、私からのメッセージです。

（山本部会長）

ありがとうございます。続きまして森崎委員お願いします。

（森崎委員）

あらためて森崎です。よろしくお願いいたします。

振り返ると、初めてこの計画部会に参加させていただいたのですが、まず、事務局の皆様、そして委員の皆様のお力に感動しております。最初に申し上げましたが、私には何の専門職もない中で、いわゆる一般の人間として参加させていただいたという意識がすごく強くて、北海道の中枢となる総合計画の、計画部会の一員にしていただいたことに大変感謝させていただいております。

初めて参加した中ですごく感じたこととして、例えば言葉の一つ一つの使い方ですとか、データの一つ一つに対するこだわりですとか、そのようなところにも、皆様本当に気を遣っているということをすごく感じましたので、改めて、一道民として、北海道職員や委員の皆様に敬意を感じているところです。

総合計画の案については、今までも思っていることをお話しさせていただいたところですけれども、一番、この案で変わった部分で、第４章の各政策の柱に、ＳＤＧｓのゴールを大きめに載せていただいているのが、すごくわかりやすくていいと感じています。

それと、皆様おっしゃっていたとおり、メッセージというものを別につくって、柔らかい語り

口の中に、一つの道筋というか目標があって、それに向かって道民みんなで進んでいくんだよ、という、まさにメッセージが伝わる内容で、こういうものが計画案に添えられていると、いわゆる一般の人にもすごく伝わりやすいと感じました。

改めて計画案を見させていただいて、専門分野がほとんどないとお話ししたのですが、私は就労関係のところに携わっているものですから、まさに今年度も道庁の関係の仕事をさせていただいている中で、７２ページのところにある指標、高齢者や障がい者や女性の就労率の目標値というところが、全国平均値以上となっていて、パラパラとめくったところ、はっきりとした数値がないのはここだけなのですね。今になって言うかという話ですが、数値が見えた方がいいのかな、と思いました。他力本願にならないような数字というか、表現の方が、自分たちで頑張ってそっちに向かっていくぞという思いにつながるのかな、ということを改めて思いました。

（山本部会長）

ありがとうございます。順番なので、私も、この案について思うところを少し述べます。

皆様のご意見をいただきながら、作っていったのですけれども、私の気になったところは、「未来への設計図」と書いてあるところです。バックキャスティングという言葉がありました。これは私も結構好きで、具体的にそこに至るというアプローチを取るべきだ、というご意見もいただきまして、全くそのとおりだと思っております。そう言う書き込みができればもちろんいいのですが、個々のことに関しては描きやすいのですけれども、総合計画ということで、グランドデザインの形というのが、なかなか難しいというのが、私が感じていることです。

ただ、そうは言っても、大きな立ち位置というか、考え方があると思うのです。ともすると、北海道ということを考えるときに、自分視点といいますか、私たちのための北海道という考え方をしてきたと思います。今回、改版いただいた中に、北海道が日本、そして世界に対して何ができるか、ということが少し書き込まれたのは良かったと思います。

例えば、「エネルギー基地」、再生エネルギーとかグリーンエネルギーの基地になって日本を支える、あと、昔から言われていますが、食料安定供給の基地としての役割、北海道が日本を支えるということを行うがゆえに、国なりグローバルな市場も北海道と一緒にやろう、という、そういう一段上に立った考え方が必要だと思うのですね。

北海道に何かをしてくれというよりも、我々はこれをする、それに対して皆さんは何をするか、それを一緒にやりましょう、というメッセージが出てくることが大事だと思っておりまして、それが結構書かれたと思います。この作成に関わっている自分を褒めるのも何なのですが、いい方向になったと思います。

あと、私の専門筋なのですけれども、世界的な動きとしてのSociety5.0とかデジタル・トランスフォーメーションの書き方は非常に難しいと思います。言葉を散りばめるのは簡単なのですけれども、具体的な話になかなか踏み込めない。私自身の考え方なのですが、これは、例えば、情報システムが表に出てくる、皆が表で携帯を持って何かをやっているのではなくて、情報システムがインフラになる、ＤＸが進んで、Society5.0という社会が実現したとすると、たぶんそれは情報システムが見えなくなる社会なのですね。水と空気と情報になるわけですから。それから言うと、巷で言われているように、携帯をかざすと何かできるような、そういうことが目についているというのは、まだまだ途上の段階だと思っております。

そういう言葉をたくさん盛り込むというよりも、情報システムが北海道の５年後、１０年後をしっかり支える、それがビジョンなのだろうと思います。そういう意味で言うと、現在の計画で具体的な未来はこうなる、というのはなかなか書きにくい、でも、それでいいのだろうと思います。

今、２点申し上げましたが、ぜひ、単に絵を描いてお終い、ということではなくて、これを受け取る知事、道の方々には、それを具体化するための手順を、この次のステップとして考えていただきたいと思うわけです。私からは、以上のような総括、まとめをしたいと思います。

皆様から一通りご意見をいただいたところでございますが、これを踏まえて、何かご発言をされたいとか、相互に質問を投げ合っていただいてもよいと思いますが、いかがでしょうか。更に

追加のご発言はございますか。
　よろしいでしょうか。特になければ、この文言に対して、具体的な修正はなかったように思っておりますので、確認させていただきます。
　総合開発委員会には、本日配付されているこの案を報告したいと思いますが、皆様、よろしいでしょうか。

（異議なしの声）

　ありがとうございます。それでは、本日出席の委員の皆様からは、このままの形で総合開発委員会に報告させていただくことにしたいと思います。ありがとうございます。
　それでは、議題（２）「その他」について、事務局から何かあればお願いします。

（２）その他

（川村計画推進課長）
　この後の日程でございますが、１４時３０分から、北海道総合開発委員会を開催いたしますので、引き続きご出席のほど、よろしくお願いいたします。事務局からは以上です。

（山本部会長）
　ありがとうございます。最後に委員の皆様から、何かございますか。

（質問等のないことを確認）

（山本部会長）
　よろしいでしょうか。以上で、予定していた議事は全て終了いたしました。
　この部会は、「総合計画の見直しに関すること」を審議するために、総合開発委員会の付託を受けて設置されたものですので、本日をもって、その役割を終えることになりました、円滑な議事進行、ご協力ありがとうございました。
　なかなか難しい時代で、私も当初５年先というと、次のバラ色の時代を描いてと思うんですけれども、コロナ禍が大幅に長引いておりまして、なかなか夢のある話をしにくい会議になったなと思っております。
　ただ、そうは言っても、大変いい案をまとめてもらいましたので、この先、「未来への”かけ橋”」を本当に架けてもらいたいと思います。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

（川村計画推進課長）
　山本部会長をはじめ、委員の皆様、どうもありがとうございました。
　総合計画の見直しにつきまして、部会長からも話がございましたが、約半年弱の間、集中的にご議論いただきましたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
　以上をもちまして、令和３年度第４回北海道総合開発委員会計画部会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。

（了）